



酷暑の夏を過ごし、九月三日に子どもたちが学校に戻ってきてくれました。始業礼拝で次のような話をいたしました。

二〇二五年度二学期の始業礼拝です。久しぶりに皆さんと会えて、うれしく思っています。お元気でしたか？

突然ですが、六年生の皆さん、大山（天仙）古墳という言葉を聞いたことがある人は手を挙げてください。（ほぼ百％）ありがとうございます。

手をおろしてください。私たちが習った頃は「仁徳天皇陵」と呼ばれていた、大阪堺市にある、今から千五百年以上も昔に造られた日本最大の前方後円墳（お墓）のことですね。

さて、夏休みに入る前の六月、新聞に大山古墳に収められていたとみられる刀子（とうすゝ小さな刀）やよろいの金属片を、国学院大学博物館が、美術商から手に入れたとの記事が出ていました。



刀子は鉄製で十センチくらい。さや（ヒノキで金銅板を張り、少なくとも五か所にびょうが打ってある。金属の破片二点は、鉄に金銅板を張ったよろいの一部らしいとのこと。

この当時、鉄は貴重品。鉄を使った刀子やよろいは、作られた当時、金色に輝いていたようです。

実は、今から百五十年以上前の一八七二（明治五）年九月に、古墳掃除の際に、前方後円墳の前方部の斜面に穴が開いていて、そのが発見され、石の棺やよろいなどが見えていたのだとか。それを絵図で記録した後、埋め戻しました。大山古墳は「仁徳天皇陵」と言われていたように、今の天皇のご先祖様のお墓と思われるために、勝手に発掘調査ができません。決まりになっているからです。

何らかの理由で石室が口を開け、その際、立ち会って絵図を残したのが柏木貨一郎という方です。美術商から持ち込まれた刀子もよろいの破片も和紙で包まれていて、その和紙には「明治五年九月和泉国大鳥郡仁徳帝御陵」などの由緒が書かれ、柏木さんの朱印が押してあります。埋め戻されたはずの实物が出てきた！こんな大発見があるんですね。どうしても見たいという方、七日まで堺市博物館で展示中だそうです。まだ間に合うかも…。

次は昨年二月の新聞記事で、イギリスの話。おじさんの遺品だという一九〇〇年代に中国で作られたキャビネット（タンスのようなもの）が、ある家族によってオークション会社を持ち込まれました。キャビネットを撮影している際、引き出しの奥から茶色いボールのような物が出てきたのだそうです。この茶色のボール、干からびてミイラのようになったレモン。「二七三九年十一月四日にP・ルー・

フランク・ニ氏からミス・E・バクスターに贈られた」というメッセージが刻印されていました。一七三九年に贈られたレモンが大切に保管され、一九〇〇年代に作られたキャビネットにしまわれ、二百八十五年後に発見されたということなのでしょう。このレモンもオークションにかけたところ、なんと千四百ポンド（約二十六万四千円）！で落札。ちなみにメインのキャビネットの落札価格は、三十二ポンド（約六千円）だったそう…。

まだ暑い日が続くそうなので、学校に通うのが憂鬱だという人もいるのでしょうか。ウクライナでも新学期が始まったようですが、空襲のたびに地下に避難する生活、だそうです。それから比べると、なんて恵まれた新学期なのでしょう。学校に行かず、家にこもっていたとしても、国によっては戦争に巻き込まれたり、思いもよらぬ地震に見舞われたりする場合もあるわけです。何もしないでいるよりも、学校に通っている方が、大発見やチャンスに恵まれる確率が高くなるような気がします。君たちはどう思いますか。カレンダーを見ると再来週以降、一週間に一度は休日が入るようです。体調を整える九月。運動会に燃える十月。ハーフタムホリデーの十一月までどうにか逃げ切り、楽しいクリスマスを迎えるという作戦で行きましょう。

（立教小学校校長 田代 正行）